

結ばれない恋の「屏風歌」

ちはやぶる神代も聞かず竜田川からくれなゐに水くくるとは 在原業平朝臣

訳：不思議なことが多かったという昔の神々の時代にも、こんなことは聞いたことがない。この竜田川に紅葉が浮いて、川の水から紅のしぼり染めにしたなんて。

在原業平は、平安時代のプレイボーイで、『伊勢物語』の主人公のモデルとして有名です。つきあった恋人は、3733人もいた！とまで言われています。

この歌は、競技かるたの漫画のタイトルにもなりましたが、実際は、紅葉の名所の竜田川で詠まれたのではなく、紅葉を描いた屏風絵を前にして詠んだ「屏風歌」です。この時代には、競って「屏風歌」を詠む遊びが、風流なものとして流行しました。

この歌の屏風絵は、清和天皇の皇后高子の屏風です。『伊勢物語』には、業平と高子が身分違いの恋に落ち、駆け落ちをしましたが、彼女の兄に連れ戻されて涙にくれるという名場面があります。この結ばれない二人の恋があったからこそ、この屏風歌に込めた業平の特別な想いが伝わり、切なくもロマンチックな歌として後世に残ったのでしょね。

小野田高等学校小倉百人一首かるた部顧問 青池のぞみ